

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02135

研究課題名(和文)18世紀ゴブラン製作所のタピスリー研究 ブーシェの下絵に基づく作品を中心に

研究課題名(英文)Study of the Gobelins Tapestries of the 18th-Centuries with a Focus on the Works after the Designs by Boucher

研究代表者

小林 亜起子 (KOBAYASHI, Akiko)

東京藝術大学・美術学部・講師

研究者番号：00618275

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、18世紀ゴブラン製作所のタピスリーの名声を高める上で貢献したフランソワ・ブーシェの下絵制作活動について、包括的に論じるものである。ブーシェは1755年にゴブラン製作所の総検査官として迎えられ、壁掛けをはじめ椅子の上張りとして用いるタピスリーの下絵を提供した。調査・研究によって、ポンパドール夫人のためにゴブランで織られたブーシェの下絵に基づく運作やタピスリーを用いた家具に関する新知見を得ることができた。また、18世紀ゴブラン製作所とボーヴェ製作所のタピスリーの比較考察などを通じて、両製作所の作品にみられる図像表現や様式的特徴について明らかにした。一連の成果は国内外で発表・公刊された。

研究成果の概要(英文)：The present research project aimed to clarify the characteristic features of Gobelins tapestry, principally by analyzing the designs for tapestries by Francois Boucher, woven at the Gobelins tapestry manufactory. Boucher was appointed Inspecteur sur les Ouvrages at the same manufactory in 1755 and begun to supply designs of tapestries for walls and seat covers. Based on the observation and analysis of Boucher's tapestry designs for Madame de Pompadour, I could get several new insights into Boucher's career as a tapestry designer. I also analyzed the stylistic and iconographic aspects of the Gobelins tapestry in comparison with those of the Beauvais tapestry. These ideas were presented, and the articles were published during the research period.

研究分野：美術史

キーワード：ゴブラン製作所 タピスリー フランソワ・ブーシェ ポンパドール夫人 ボーヴェ製作所 18世紀  
フランス美術 装飾芸術

## 1. 研究開始当初の背景

フランソワ・ブーシェ (1703-1770) はボーヴェ製作所の下絵画家として活動したのち、後年にはゴブラン製作所の総検査官に任命され、同制作のためのデザイナーとして活躍した。ブーシェの下絵に基づくゴブラン製作所のタピスリーについては、モーリス・フナイユ (1903) が取り上げて以後、部分的な考察をのぞいて、ほぼ一世紀近くの間、詳細な研究がなされてこなかった。その後、2014年、ゴブラン製作所のタピスリー研究の第一人者であるジャン・ヴィテの監修により、ゴブラン製作所の18世紀のタピスリー全般に関する展覧会が開催され、これをきっかけに、近年この時代のタピスリーに対する関心は高まりをみせている。しかしながら、ゴブラン製作所のアンシャン・レージュム下で最後の興隆期を生み出したブーシェのタピスリーに関する包括的研究は、今なお重要な研究課題として残されたままであった。

一方、過去のブーシェ研究においても、ゴブラン製作所のためのブーシェの制作活動については十分な研究がなされていない。もっとも基本的な文献であるアレクサンドル・アナノフによる絵画と素描のカタログ (それぞれ1966、1976年に刊行) においても、タピスリーについては、関連する絵画・素描作品についての議論のなかで断片的に言及される程度である。また、現存するブーシェのタピスリーについては、各国の美術館所蔵品カタログの解説 (エディット・スタンデン1985年など) のなかで、関連する基本情報が散発的に明らかにされてきたが、ブーシェの下絵によるタピスリーを美術史的観点 (様式・図像・歴史的文脈) から包括的に論じた研究は今日まで存在せず、ブーシェの芸術家像を知る上での重大な欠落部分となってきた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、18世紀ゴブラン製作所の名声を高める上で大きく貢献した画家フランソワ・ブーシェのタピスリー下絵制作活動の実態とその意義について、一次史料調査と作品研究を通じて明らかにするものである。

これまで筆者は、タピスリー下絵画家としてのブーシェの制作活動の前半期にあたるボーヴェ製作所のための諸作品に関する研究を行ってきた。その研究成果は、2010年度に東京芸術大学に提出した博士学位論文においてまとめられ、さらに2015年に単著『ロココを織る フランソワ・ブーシェによるボーヴェ製作所のタピスリー』として公刊された。本研究課題は、ブーシェの下絵制作活動の後半期にあたるゴブラン製作所での制作活動を対象とするものであり、これまで筆者

が行ってきたボーヴェ製作所に関連した研究成果とあわせて、ブーシェのタピスリーに関する総合研究を完成させるためのものでもある。

## 3. 研究の方法

ブーシェの下絵に基づくゴブラン製作所のタピスリーに関する包括的理解を最終的目標とする本研究は、以下の方法で遂行された。

ブーシェの下絵に基づいてゴブラン製作所で織り出されたタピスリー連作に関する実見調査、図像学的分析及び関連資料の精査。

18世紀にゴブランで織られていたブーシェ以外のタピスリーについての実見に基づく考察と分析。

ゴブラン製作所と競合していたボーヴェ製作所の18世紀のタピスリーとゴブランのそれとの様式的・図像的傾向の比較考察。

ブーシェに基づくタピスリーの注文主であった国王ルイ15世の寵姫ポンパドゥール夫人によるパトロネージに関する調査・研究。

以上、4つのポイントに絞って、順次調査研究を実施することが本研究の主要な作業となった。

## 4. 研究成果

本研究では、モーリス・フナイユに代表されるブーシェの下絵に基づくゴブラン製作所のタピスリー研究を、今日までの研究成果に照らして根本的に改訂・深化させることができた。これによって、アナノフによるブーシェの絵画・素描の集成研究のなかで、タピスリーに関連した作品については、最新の情報と先行研究をふまえて刷新された。また、ブーシェの作品研究を通じて、18世紀ゴブラン製作所のタピスリーの特質についても明らかとなった。

これらの調査研究を進めるなかで、いくつかの新知見を得ることができた。

第一に、18世紀ゴブラン製作所の代表的な連作とボーヴェ製作所の連作との比較を行うことによって、これらの下絵を提供していたブーシェをはじめとする画家同士の競合関係を新たに提示することができた。この成果は、2015年にフランスのタピスリーに関する共著 (*Arachné : un regard critique sur l'histoire de la tapisserie*, Presses Universitaires de Rennes, 2017) として公刊された。

第二に、ブーシェがゴブラン製作所のために手がけた最初の作品で、また、ポンパドゥール夫人のために制作された椅子の上張りとして用いられたタピスリーについて論じた。ここでは、本タピスリー下絵制作時期と

同じ頃に、ブーシェが王立セーヴル製作所に提供した作品との関連性について新たな見解が提示された。この成果は、2017年に論文(「Madame de Pompadour et les meubles d'Enfants d'après Boucher : question sur la circulation de ses modèles dans les manufactures des Gobelins et de Vincennes-Sèvres」)としてまとめられた。

このタピスリーの下絵は牧歌的テーマ(パストラル)をテーマとするものであった。そこで、ブーシェ芸術におけるパストラル表現について、その出発点にさかのぼって考察した。ここで得られた新たな知見は、2016年に論文(「ブーシェの初期パストラル再考 『ジュリエヌ画集』におけるヴァトーの版画をめぐって」)として発表された。

第三に、ポンパドゥール夫人の依頼を受けて、ゴブラン製作所のためにブーシェが手がけた代表作《日の出》と《日の入り》(下絵はロンドンのウォレス・コレクションに所蔵されている)について、包括的な調査研究をおこなった。その成果は、2015年に日仏美術学会にて発表されたのち、2017年に論文(「Le Lever et le Coucher du Soleil de François Boucher : les peintures tissées aux Gobelins pour Madame de Pompadour」)として刊行された。

また、この作品研究の過程で新たに得られた視覚的着想源を含む新知見は、2016年にローマのフランス・アカデミー(ヴィッラ・メディチ)で行われた国際シンポジウムにて発表された。この口頭発表に基づき、2017年には論文(「L'Appropriation du passé dans le Lever et du Coucher de Soleil de François Boucher」)を執筆した。

以上のように本研究では、国際的寄与に鑑み、研究成果を欧語で発表・公刊するよう積極的に取り組んだ。一連の成果は、ブーシェ研究において(及びロココ美術研究一般においても)伝統的に絵画研究が主流であるなかで、アンシャン・レژیーム期の画家にとつてのタピスリーに関連した制作活動の重要性を示すものであり、タピスリー芸術、ひいては装飾芸術の再評価に結びつくものとなった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

Akiko Kobayashi, « L'Appropriation du passé dans le *Lever* et du *Coucher de Soleil* de François Boucher », *Aspects of Problems in Western Art History*, vol. 15, 2017, p. 51-57

Akiko Kobayashi, « Le *Lever* et le *Coucher du Soleil* de François Boucher : les peintures

tissées aux Gobelins pour Madame de Pompadour », *Bulletin de la Société de Franco-Japonaise d'Art et d'Archéologie*, vo. 36, 2017, p. 3-21

Akiko Kobayashi, « Madame de Pompadour et les meubles d'Enfants d'après Boucher : question sur la circulation de ses modèles dans les manufactures des Gobelins et de Vincennes-Sèvres », *Aspects of Problems in Western Art History*, vol. 14, 2017, p. 69-79

小林亜起子「ブーシェの初期パストラル再考 『ジュリエヌ画集』におけるヴァトーの版画をめぐって」『五浦論叢』23号、2016年、73-83頁

小林亜起子「フランソワ・ブーシェとボーヴェ製作所のタピスリー ゴブラン製作所とボーヴェ製作所の対抗関係からのアプローチ」*Aspects of Problems in Western Art History*, vol. 13, 2016, p. 91-98

[学会発表](計2件)

Akiko Kobayashi, « Le *Lever du Soleil* et le *Coucher du Soleil* de François Boucher », dans XIVe École internationale de Printemps en Histoire de l'art organisée à l'occasion du trois-cent-cinquantième de l'Académie de France à Rome : *Passés présents. Construction, transmission et transgression du passé dans les arts*, L'Académie de France à Rome-Villa Médicis, Rome, 2016

小林亜起子「フランソワ・ブーシェ作《日の出》と《日の入り》について」(第136回日仏美術学会例会「18世紀フランス語圏絵画再考 制作と理論から」)2015年、日仏会館(東京)

[図書](計2件)

Pascal-François Bertrand, Audrey Nassieu Maupas (éd.), Akiko Kobayashi et al., *Arachné : un regard critique sur l'histoire de la tapisserie*, Presses Universitaires de Rennes, 2017

小林亜起子『ロココを織る フランソワ・ブーシェによるボーヴェ製作所のタピスリー』中央公論美術出版、2015年

[産業財産権]

○出願状況(計0件)  
○取得状況(計0件)

[その他]

小林亜起子「グスタヴィアン・スタイル誕生 18世紀スウェーデンの国王グスタフ3世と芸術」, NHK 交響楽団ホームページ「カ

## レイドスコープ」

<http://www.nhkso.or.jp/library/kaleidoscope/19572/>

越川倫明、小林亜起子ほか『レオナルド・ダ・ヴィンチとアンギアーリの戦い展～日本初公開「タヴォラ・ドーリアの謎」増補版・第3版（展覧会カタログ）東京富士美術館/読売新聞社、2017年、171-175, 181, 194-195頁（作品解説を執筆）

矢野陽子、安室加奈子、小林亜起子ほか『マリー・アントワネット展』森アートセンターギャラリー/日本テレビ、2016年、42, 43, 53, 54, 55, 56, 86, 87, 105, 121, 122-129, 174, 175, 192, 202, 206, 214, 215頁（作品解説の翻訳を担当）

越川倫明、小林亜起子ほか『ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年』名古屋ボストン美術館/中日新聞社、2015年、107-113, 116-127頁（章解説の翻訳を担当）

越川倫明、小林亜起子ほか「Yashiro and Berenson: Art History Between Japan and Italy」Villa I Tatti The Harvard University Center for Italian Renaissance Studies（矢代幸雄による書簡の解説及び書簡の人名索引を担当研究代表者 越川倫明 研究協力者として参加）  
<http://yashiro.itatti.harvard.edu>〔2015年6月公開〕

小林亜起子「自著を語る『ロココを織る フランソワ・ブーシェとボーヴェ製作所のタピスリー』」『地中海学会会報』392号、2015年、7頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小林 亜起子（Akiko Kobayashi）  
東京藝術大学・美術学部・講師  
研究者番号：00618275